

10月21日(火)

下北むつ地区第1回研修会

地球のステージ 特別編

東日本大震災の被災体験と13年目の被災地の現在、そして、世界の紛争、特にパレスチナ・ガザ地区での戦争と医療救命活動（人間が起こす災害について）

講師：桑山紀彦（NPO地球のステージ代表）

本校からは保護者・教員併せて11名が出席しました。参加した保護者の皆さんは、桑山氏の語りと歌を聞いて感動したと感想を述べていました。実は同日、本校でも5・6時間目を使って全校生徒を対象に講演会が開かれました。生徒たちにも強く印象に残ったようです。



2学期 PTA 各種活動

10月30日(木)

第2回 登校時一声運動



今年度2回目の登校時一声運動を行いました。ハロウィン前日にちなみ、全校生徒にお菓子を配布しながらという新しい試みです。参加した保護者の皆さんと生徒がコミュニケーションを取る一声運動

はいつも以上に活気に溢れていました。笑顔が多く見られた素敵な朝となりました！！

11月22日(土)

PTA 研修旅行

今年度のPTA研修旅行場所は「自衛隊」。近いからこそじっくり見たことがなかった自衛隊の中を見学させていただきました。艦艇・北洋館の見学では、参加者から「面白い!」「知らなかった」と様々な感想が聞こえてくる有意義な時間となりました。

さて、来年度の研修旅行はどこになるのでしょうか...?



11月25日(火)

下北むつ地区第2回研修会



"守る" から "尊重する" へ ～子どもの権利を考える～

講師:田中志子(青森大学教授)

● 開会式



● 閉会式 (閉会宣言: 本校 PTA 副会長 伊藤一成)



● 子どもを尊重し、対話を大切に

子どもたちは、将来を担う大切な存在です。彼らの権利を尊重し、彼らが何を考え、何を感じているのかを理解することが重要です。子どもの権利条約にもあるように、大人は子どもにとって最善の選択をする責任がありますが、時にそれが行き過ぎてしまうこともあります。子どもたちの「今の声」をしっかりと聞き、日常の対話を大切にしましょう。

● 子どもの伴奏者として

大人は、子どもが悩んでいるときにすぐに答えを教えたいくなりますが、それが必ずしも最善とは限りません。子どもがつまずくことや失敗することも、彼らにとっては貴重な経験です。大人の経験からくる答えを押し付けるのではなく、子どもが自分で考え、選択肢を見つけられるようにサポートすることが大切です。



● アサーティブコミュニケーションの活用

対話を円滑に進めるためには、アサーティブコミュニケーションが効果的です。「**事実+感情+希望**」を組み合わせた伝え方を心掛けると良いでしょう。例えば、「最近休みが多くて心配しているよ。よかったら、休みの理由を聞かせてくれる?」といった表現です。このように伝えることで、相手を尊重しつつ、建設的なコミュニケーションが可能になります。

● 家庭を超えた支援の必要性

田中氏は、すべての問題を家庭内だけで解決するのは難しいと指摘しています。地域や行政の力を借りて、子どもたちを支える社会を築いていくことが求められています。大人が子どもを権利の主体として認め、彼らの意見を尊重しながら共に歩んでいくことが大切です。



子どもの権利条約

大人向け



子ども向け

